

# 「駅体制の見直し」に関する申し入れ

～申2号 団体交渉②～

3. 技術継承・技量維持の観点から、現車を使用した水戸駅構内での入換作業訓練を定期的に実施すること。

会社回答：職場におけるOJTおよび必要な教育は引き続き、実施していく考えである。

## 組合

- 現在行われている教育は何か。
- 30分で何をやるのか。
- 実作業が一番だが今後は半分になる。乗務員も回数が減ることによって不安になる。実際に乗務員や誘導、信号担当も含めた入換作業訓練を行うこと。
- 慣れた人でも回数が減れば不安になる。全て同じ作業とならずとも、技術継承・技量維持の観点から、支社としても現場の声を聞き入換を想定した訓練を行うべきだ。

## 会社

- ◆ 今後も水戸駅での入換作業は残る。教育としてC1、C2の見習い。作業ダイヤに業間30分の指導教育として行っている。
- ◆ 他山の石や連結のビジュアル訓練等。また、支社でも年2回現車を使用して訓練を実施している。実業務できる社員にOJT教育や今後、入換が半分になるとは言え実際に仕事をしながら学んでもらう。
- ◆ 入換は一定程度残る。引き続き検討していく。
- ◆ より効果的な訓練にしていきたい。検討する必要はある。

今後電気機関車から新型のレール輸送、砕石輸送、牽引車両への置き換えが進む中でも、入換業務は継続して発生していきます。  
国鉄時代から常に危険と隣り合わせの入換業務だからこそ、安全が確保されなければいけません！



技術継承・技量維持によって

“いのち”を守る職場を！